北海道師範塾「教師の道」 塾頭通信
第393号　平成24年９月13日

３２６１人

　文部科学省は１１日、２０１１年度における全国の小中高校と特別支援学校が把握したいじめの件数を明らかにしました。

　それによると、全国のいじめの把握件数は7万２３１件で、０６年度以降最多となっています。自殺した児童・生徒も前年度より４４人も多い２００人となっています。

　一方、道内のいじめ把握件数は下表の通りで、平成２３年度は３２６１人となっており、前年度と比較すると、全国の状況とは異なり約３割減少しています。

	H18	H19	H20	H21	H22	H23
小　学	４０９９	２６５１	２２８５	１６２７	２１４８	１２６１
中　学	２８０９	２０６１	１７４８	１４４４	１９６４	１５２５
高　校	８２５	４０４	２７５	３００	５２８	４６１
特　別	５２	２８	２２	１９	１８	１４
合　計	７７８５	５１１４	４３３０	３３９０	４６５０	３２６１

（児童生徒の問題行動等調査から）

　今回の結果について、北海道教育委員会は「いじめ防止の取り組みの効果がある程度表れた」と見ているようですが、同時に、「すべてを把握できているわけではない」として、更に実態把握に努めることとしています。

　今回の調査で、北海道におけるいじめ把握件数が減少した事は歓迎すべきですが、この数字がいじめの全容を示しているとは考えられません。

　いじめの態様を見ると、冷やかしやからかいなどの形を取っている事例が圧倒的に多いため、北海道教育委員会が懸念しているように、いじめが当事者以外では分かり難いというケースも多いと思われます。従って、今後とも、各学校においては、把握しきれていないいじめがあり得るとの認識をもって、実態把握に努めていただきたいと思います。

先日、ＳＴＶの「どさんこワイド」から、いじめの問題に関して

・平成２１年度から２２年度にかけて、いじめが増えた背景

・いじめ防止の方策

について取材を受けました。色々しゃべったのですが、実際に放送されたのはその中の極一部でしたので、改めていじめの問題について考えてみたいと思います。

上記の表を見ていただいても分かるように、年によって増えたり減ったりしておりますが、何故そうなっているのかは、正直よく分かりません。

いじめの態様は、いくつかのパターンに分析できるかもしれませんが、いじめが人と人との関係の中で引き起こされるものである以上、その原因や背景については一様ではありません。

ただ、子ども達のいじめ問題を考える時、大人社会の有り様が非常に気になります。何故なら、大人社会の有り様は子どもの社会にも投影され、少なからず影響を与えていると考えられるからです。

大人社会にもいじめはありますし、常識を疑うようなパワハラ問題も少なくありません。

厳しい経済環境の中で、大人達が自信を失い、未来を語れなくなっている。そんな姿が目に浮かびます。

そうした大人達の姿が子ども達のいじめの原因だとは申しませんが、ただ、大人達が、仲間と信頼し合い、力を合わせて新しい地域づくりに汗している。夢を語り、目標に向かってチャレンジし続ける。そんな大人達の後姿を子ども達がカッコ良いと感じて、自分もカッコ良い大人になろうと思ってくれれば、いじめにうつつを抜かす子どもが少しは減るのじゃないかと思っています。

さて、いじめ問題については、これまでも行政や学校は様々な対策を講じてきましたが、十分な成果をあげているとはいえません。いじめを根絶する事は事実上困難であるとしても、少しでも減らす努力は惜しむべきではありません。

まず、学校は、子ども達にとって絶対安全な居場所でなければなりません。その前提で対策に当たらなければなりません。

「いじめは絶対に許されない行為である」ということは、繰り返し、繰り返し教える必要があります。

一方、いじめられている子に対しては、無理をするな、我慢するな、いじめられているなら「自分はいじめられている」と教師にいうように伝えるべきです。ただ、教師との間で信頼関係がない限り、子ども達が「いじめられている」

と教師にアナウンスするとは思えません。まず、教師の皆さんは、子どもからそうしたアナウンスがあった場合には「何があっても君達を守る」という強い意志と行動を子ども達に示すことが必要です。

　また、あるクラスでいじめ問題が発生した場合、担任の先生に責任が押し付けられたり、特定の教師に負担が集中したりすることが往々にしてあります。

　いじめ問題は、学校全体で解決に当たらなければなりません。その為には、校長のリーダーシップが欠かせません。少なくとも、渦中の教師を孤立させてはなりません。

　また、心の教育を徹底する事も重要です。仲間を大切にする。弱い者をいじめない。助けを求めているものに手を差し伸べる。卑怯な振る舞いはしない。これらは、道徳心を養う教育、公共心を養う教育といい換えてもよいと思いますが、こうした心の教育を、これまで以上に徹底する必要があるでしょう。

　更に、子ども達には、命の教育を通して、人が生まれ死ぬというその営みの不思議さや神秘さ、命の尊厳さというものをしっかりと教えて行く事が重要です。子ども達には、人の命も自分の命もかけがえのないものであり、一度失われた命は取り返しがつかないという事を、心に染み込むように理解させなければなりません。

　以上述べたような事は、これまでも、それぞれの学校で取り組んで来ている事だと思いますが、考えられる事、やれる事はどのような事でも、倦まず弛まずやり続ける事、これ以外にはないと思います。いじめ対策に即効薬はないのですから。（塾頭　吉田　洋一）